

## 年次大会に参加して各学校生徒からの感想

### 成田高等学校

年次大会を通して感じたこと 藤澤祐香さん

フリー・ザ・チルドレンの方から残酷な環境の中で生きる激戦地の子供たちの実情など現実的なお話を伺うことができ、国際協力に興味がある私にとってとても充実した時間を過ごすことができました。激戦国では5秒に1人の子供が生きたくても生きられずに命を落としているのに対し、日本では1時間に1人の子供が生きられるはずの命を自ら絶っているという事実は衝撃的でした。

私達先進国の学生はまず、世界のどこで何を原因として何が起きているのかもっと知るべきだと思います。私も大学に行ったら社会科学を基礎根底から学んで、社会問題やその解決方法について幅広い知識をつけたいと思っています。

このようなイベントには積極的に参加し、人道的な方々の影響を受けながら将来社会で役に立つ人材となれるよう日々成長していきたいです。

年次大会を通して感じたこと 鈴木麻友さん

先日、インターアクトの年次大会に初めて参加しました。わずか半日という短い時間でしたがとても濃い内容だったと思います。私はそこで学んだことにショックを受け、世界の本当の状況に言葉を失いました。貧困や児童労働の重大さは日々何不自由なく過ごしている私たちのような先進国の人からは考えられないほどでした。この子たちを救いたい。そんな考えが私の中で沸々と沸き、この子たちに何かしたいと思いました。特に、講師の方が言っていた「一人で行動を起こすことは難しいかもしれない。けれど人が集まれば大きな力となり助けることができる」この言葉はものすごく印象的で今でも覚えています。この年次大会に参加してますます世界の現状に興味がわきました。今すぐには無理かもしれないけど、いずれは何か困っている人のために協力できたらいいなと考えています。これからはインターアクターとしての自覚をしっかりと持ち、いろいろな行事に参加していきたいです。

### 千葉県立千葉商業高等学校

インターアクト年次大会に参加して 伊藤柚希さん

私は初めて年次大会に参加して、たくさんのことを学びました。フリー・ザ・チルドレン・ジャパンの方から教育についての話を聞いて、その中でゲーム形式で貧困と教育を結び付けて考えることができました。ゲームは、カードに情報とミッションが書いてあって、それを一つずつクリアしていくというもので、例えば水を汲みに行くのが女性ばかりという情報のミッションは男性は利き手で十回女性は利き手と逆の手で十回水と書く、という女性が不利になるものでした。このように情報とミッションをリンクさせていたので理解がしやすかったです。このゲームの中で私が印象に残ったのは、六つの言語の中からゾウ

という意味の単語を二つ選ぶというもので、私はもちろん知らない言葉なので全く分からなかったけど、自分の国の言葉なのに教育を受けていないせいで読めないと思いました。教育を受けていないことが命にかかわるとは今まで思わなかったし、自分が当たり前で教育を受けているのはとても恵まれているんだと気付くことができました。最後に、自分の好きなこと、得意なことと問題を結び付けてできることを具体的に考えられたので、大きく考えすぎずに身近なところから自分のできることをしていきたいと思いました。また、もっとたくさんの人に貧困について知ってほしいです。最後になりますが、市原中央高校、市原ロータリークラブ、そしてフリー・ザ・チルドレン・ジャパンの皆さま、ありがとうございました。

インターアクト年次大会に参加して 鎌田将義さん

今回の第51回インターアクト年次大会は「70億の幸せを求めて」という今回のテーマ通り、いま世界で起きている教育や貧富の格差などについて改めて考える良い機会となりました。フリー・ザ・チルドレン・ジャパンの中島さんのお話を聞いていくなかで、子どもや若者が自身で変化を起こすという精神が広まりつつあるということに感銘を受けました。今でも世界では貧困からの児童労働や、教育を受けることのできない子どもたちがたくさんいます。アフリカなど出生率が高い地域では、全体に占める児童労働の割合は減ってもその数自体は増えているというのが現状です。そういった中で「**Make a difference**」という理念が未来の子供たちにも受け継がれ、継続的に状況の改善に力を注ぐことが重要だと考えました。ヨーロッパへの難民など現在起きている深刻な問題に関しても、目先のことばかり考えずにお互いを理解し長期的な視点でよくしていくことが延いては70億の幸せにつながるのではないかと思います。最後になりますが、市原中央高校、市原ロータリークラブ、そしてフリー・ザ・チルドレン・ジャパンの皆さま、ありがとうございました。

千葉県立大原高等学校

インターアクト年次大会に参加して 渡邊夏音さん

私たち大原高校は、ホスト校市原中央高校のお招きに預かり「第51回インターアクト年次大会」に参加させていただきました。

今年度のテーマは「70億人の幸せを求めて」でした。フリー・ザ・チルドレン・ジャパンの方々を講師としてお招きになりました。話を聞いて印象に残ったことは名前の由来です。わずか12歳の少年が仲間と共に作り出したグループを全世界に広めた事には感銘を受けました。彼らは周りから「子供になんかに何が出来る?」「大人になってからでもいんじゃない?」「そんなの大人に任せておけばいいよ」「そんなの大人に任せとけばいいよ」そんな批判を受けながらも信念を曲げずに仲間とやり遂げたと聞き、今もその内容が忘れられません。

午後の分科会は「テーマ：偏見について」に参加し話し合いをしました。講師の伊是名夏子先生は自分の体験を通じて障害を「個性」として普通の人と支えあっていきたいというメッセージが心に残っています。先生の前向きな生き方に勇気をもらいました。

私は、今年で「インターアクト」の活動は出来なくなりますが、後輩には勿論のこと多くの人々に「誰かを助けたい」「人の役に立ちたい」ボランティアの心は私たちの心を豊かにしてくれるものだということを伝えたいと思います。この年次大会を通じて貴重な考え、多くの方々との交流は貴重な体験となりました。ホスト校である市原中央高校の皆さま、市原ロータリークラブの皆さま、NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパンの皆様、ありがとうございました。

#### インターアクト年次大会に参加して 菰田涼さん

8月26日に開催されました第51回インターアクト年次大会に参加しまして多くの事を学んでまいりました。大会テーマは「70億人の幸せを求めて」であり、市原中央高校がホスト校を務めました。今大会ではフリー・ザ・チルドレン・ジャパンの方々を講師にお招きし、どのような活動をしている団体か、世界の子供たちの現状、今何が必要か、どのような支援が出来るのかなどを学びました。

午後には各分科会に分かれての学習の場を設けていただき、さらに深く世界の子供たちの現状について学びました。インターアクトの活動もフリー・ザ・チルドレン・ジャパンさんのようなNPO法人の方々の誰かを助けたい、支援したい、という目的や気持ちは同じだと思います。よい意見交換ができ、大変貴重な経験をさせていただきました。

また、各校のインターアクトの活動を1枚のポスターにまとめ発表するポスターセッションでは市原RCの方なども見に来てくださりました。今後、活動の輪を広げ、多くの人に自分たちの活動を知ってもらいたいと思いました。今回の貴重な経験を無駄にせず、日々の活動に生かせるように努めていきたいです。

最後になりますが、ホスト校である市原中央高校の皆さま、市原RCの皆さま、フリー・ザ・チルドレン・ジャパンさんの皆さま、ありがとうございました。

#### 千葉県立館山総合高等学校

#### インターアクト年次大会を終えて 大月美奈さん

初めに今回の年次大会主催および準備等ありがとうございました。市原中央高校合唱部さんの合唱を聞いて、とても感激したのを覚えています。ありがとうございました。

今回の年次大会のテーマは、「70億人の幸せを求めて」でした。午前の部では、フリー・ザ・チルドレンの方にお話をいただきフリー・ザ・チルドレン創立から現在までについて理解しました。12歳のクレイグ君は幼いのに自分の強い考えを持っているし、その考えを広めるために世界30カ国以上の国々を旅したことはすごいと思うし尊敬します。私は、世界を旅することはできないけれど募金や、寄付など身近な事ならできるので出来

ることをやっていきたいなと思います。午後は、事前に各学校で準備した掲示物の発表を  
しました。他校の生徒さんとたくさん交流できいろいろな活動内容を知ることができたい  
い機会でした。

#### インターアクト年次大会を終えて 石井海音さん

私が最も印象に残ったのは、「難民問題」の分科会でした。この分科会では難民とはどの  
ような人たちのことを言うのか、自分が難民だったらどうするか、自分たちには何ができ  
るのかを考えました。私が特に印象に残っているのは、子供兵士について考えた場面です。  
実際に子供兵士にされてつらい経験をしたミシェル・チクワニネさんの講演の映像も見ま  
した。ミシェルさんは5歳の時に突然誘拐され、親友を銃で殺せと脅されて殺してしま  
いました。私は、例えそうしなければいけない状況で、親友だということも分からなかつた  
としてもミシェルさんはその時からずっと罪悪感をかかえて生きてきたと思うと、5歳  
の子供にそんなことをさせて生きていこうとしている大人たちがいるのはすごく怖いし許せ  
ないと思いました。今も子供兵士として戦わせられている子供が世界には約30万人いる  
のだと思うと、少しでも早く子供たちに安全な生活をさせてあげたいと強く思いました。

#### 千葉県立茂原樟陽高等学校

#### インターアクト年次大会に参加して 高森拓斗さん

私は、8月26日に開催された第51回インターアクト年次大会に参加させていただきました  
ました。今年は「70億の幸せを求めて」というテーマでしたが、私は初めての参加だつ  
たのでいろいろと不安な気持ちでいっぱいでした。

開会式では市原中央高等学校合唱部の皆さんによる「HAPPYイチハラ」と「プレゼ  
ント」という曲が披露され、とてもすばらしい歌で感動しました。次に点鐘や国歌斉唱、  
歓迎の言葉などがありました。その中で「インターアクトの歌」という曲を斉唱しまし  
た。私はこのような歌があったなんて知らず、驚きました。

その後、フリー・ザ・チルドレン・ジャパン代表の中島早苗さんから「国際社会で世界  
を変える」というテーマで講演をいただきました。

昼食では市原の名産物を使用した弁当が配られ、とっても美味しかったです。

ポスターセッションでは、部長が制作したポスターの内容を説明する手伝いをしました。  
この時私は緊張して説明を早く言ってしまい、相手に伝わらない事もあったので来年は上  
手く、そしてわかりやすく説明できるようにしたいと思います。

午後に行われたワークショップでは他校の生徒とグループを組み、「教育」とは如何に大  
切かを教わった後はグループのメンバーと「教育」について語り合いました。その後、講  
師の先生が用意したゲームを皆で協力してクリアするなどして、「教育」についてより楽し  
く学ぶ事ができました。

私は、今回の年次大会でいろいろな事を学びました。来年もぜひ参加していきたいと思  
いました。

### インターアクト年次大会に参加して 小川千尋さん

私は、8月26日に市原中央高等学校で行われた第51回インターアクト年次大会に参加してきました。今年の大会テーマは「70億の幸せを求めて」で、午前の部ではNPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパンの中島早苗さんによる講演会から始まりました。

講演会のテーマは「『国際社会で世界を変える』～自分たちにもできる国際協力～」でフリー・ザ・チルドレンが設立された話や、どのような活動しているのかを聞きました。世界には4.8秒に1人の子供が貧しさのために、飢えを防ぐことができずに亡くなったり、9人に1人が児童労働、日本でも毎日1人以上の子供が命を絶つなど、普通に生活できない子供がたくさんいることがわかりました。1日でも早く子供に平和がくるといいと思いました。

午後の部では、4つの分科会に分かれてワークショップが行われました。事前のアンケートで私は「偏見」を選びました。講師はコラムニストの伊是名夏子さんで、骨形成不全症の障害を持っているとのことでした。2人1組になってペアワークを行ったり、伊是名さんの私生活、骨形成不全症のことなどを聞きました。聞いたことのない用語もありましたが、障害者にとっては辛いものだとわかりました。

年次大会の参加は今年で最後になりますが、今年の大会はポスターセッションで使うポスターの制作から始まり、苦労したこともありましたが、伝えたいことが伝えられてよかったと思います。最後に、主催会場の市原中央高等学校インターアクトクラブの皆さん、先生方、お疲れ様でした。

### 千葉黎明高等学校

#### 年次大会を終えて感想 星和馬さん

この度、第51回インターアクト年次大会に参加し、多くの経験をする事ができました。午前中はNPO法人のフリー・ザ・チルドレンの方の講演を聴きました。世界の子供たちの中には自分達のように恵まれている人だけでなく、貧困などによって学校にすら行くことができない人が数多くいるという現実を知り、強い衝撃を受けました。

その後、「難民問題」のワークショップに参加しました。大切なものを失い難民となった人々が、不安な気持ちと過酷な状況の中で生き延びるのは、どれほど大変だったのかという事を改めて考えさせられました。

今年度の年次大会での講演や話し合いを通じて、貧困や難民などについて再認識することができました。この様な問題を無くすためにも、インターアクトの活動は必要不可欠なのだと改めて実感しました。今後も、ここで得た経験を活かし、インターアクターとしての活動を積極的に行なうと共に、より多くの人に協力をしてもらえるように呼びかけなければならないと思いました。また、今回の年次大会に参加したことで、各校のインターアクターと様々な交流を持つこともでき、とても充実した1日を過ごすことが出来ました。

## 聖徳大学附属女子高等学校

### 年次大会を通して学んだこと 岡本京子さん

今回の会では私にとって、初めて学んだことやびっくりすることが多くありました。まず、私は日本という国で、平和で不自由のない生活を送っています。しかし、他国では、私よりも小さな子どもたちが親のために働いたり、お金がなくて勉強できなかつたり、騙されて売られたりしていることがあります。このようなことが起きないようにと立ち上がった人たちが、一生懸命活動して、少しでも勉強のできる環境をつくっています。

このような現状を知り、自分は何ができるのかを考えてみました。まずは募金や、自分の使わなくなった物を送るなどして、自分には関係ないと思わないこと。そして、自分と同年の子どもたちや、自分より小さい子どもたちが苦しんでいることを詳しく知ることだと思いました。私は、戦争を経験していないし、家がないといった状況を知りません。だから、そういったことを経験している人たちの気持ちをわかることはできません。でも、わかろうとすることはできます。そして、助けようと動くことができます。少しずつでも、苦しんでいる人たちのために自分に何ができるかを考えようと思います。そして、年次大会に来ていた高校生たちとも、たくさんの意見を交わして、考えさせられることがあり、参加できてよかったと思いました。

### はじめての年次大会で思ったこと 日暮那菜子さん

私は今回、年次大会に初めて参加しました。その中で学んだことが三つあります。

一つ目は、知らない学校の、色々な地域から集まった同世代の人たちと自分の思っていることを伝えるコミュニケーションの大切さを実感しました。私は全く知らない人とコミュニケーションをとることが苦手ですが、知っている人がいない中で自分の意思を伝える大切さを学びました。

二つ目は、世界には恵まれていない国、人がたくさんいる、日本はとても恵まれているということを学びました。自分の住んでいる家や国から追い出され、自分の家族からも離される人々や、幼いうちから子ども兵士として働かされている子どもたちのことを知り、自分には何ができるのか、自分の住んでいる環境はどんなに恵まれているのかを改めて考えることができました。

三つ目は、各学校が、普段どんな活動をしているのかを知ることができました。その中でも私がすごいなと思ったのが、きれいでまだ着られる古着を集めて、ユニクロに送り、世界中の恵まれない子どもたちに服を送るというプロジェクトです。

今回初めて参加した年次大会は、どのような雰囲気なのか、色々な学校から集まった知らない人たちとうまく話せるか不安でしたが、多くの人とコミュニケーションをとることができ、たくさん学べた会でした。来年も多くのことを学びたいです。

千葉県立安房拓心高等学校

年次大会を終えて感想 豊藏明日香さん

今回の年次大会は、テーマが「70億の幸せを求めて」という事でフリーザチルドレンジャパンの方々による講演会や各校のポスターセッション、分野に分かれての講習会など様々でした。講演会では、世界には学校にも行けず過酷な労働作業をして学校にも行けず自分の名前も書けないと知ったときは、「自分は学校にも行けて何て恵まれているのだろうか」と思いました。私はこれからものを買う時などは「この商品はどんな人が作っているのだろうか」と考えていきたいと思いました。講習会では、難民について学びました。一言に難民と言っても様々で難民申請を出すにも自分の身分証明書がなくて自分が自分であると証明するのも難しく申請を出しても2年以上待たなければならぬなど様々な問題があり、また海外の難民の受け入れや日本はどうかなどグループで別れて話し合ったりして様々な意見が聞けました。今回改めて、今ある生活が幸せな事を改めて感じました。

東海大学付属市原望洋高等学校

インターアクト年次大会に参加して 坂本陽太さん

私は今回の年次大会に参加して、教育の大切さを学ぶことができました。フリーザチルドレンジャパンの方々の指導のもと、5つのチームに分かれて、題材が書かれた紙を読み、チームの仲間と力を合わせてゴールを目指し、最終的には全員が自立することを目標にしたゲームを行いました。その題材の中には普段見慣れていない言語で書かれたものがあり、ほとんど読めず苦勞しました。それが意味していたのは、文字を知ることの大切さでした。教育を受けずに育った少女が自らの子のために飲料水を買おうとしたところ、文字を読むことができなかつたために間違えて農薬を買ってしまい、それを赤ちゃんに与えてしまい、死なせてしまった事故があったそうです。

今回のゲームとその話を聞いて、世界中の人々が教育をきちんと受け、文字の読み書きができるようになることが必要だということが分かりました。

インターアクト年次大会に参加して 岡知加さん

私は、youホールで開催されたインターアクト年次大会に参加しました。今年は、市原中央高等学校が開催校でした。大会テーマは「70億の幸せを求めて」という現代社会の「グローバル化」に関係する問題を話し合うものでした。講演では、フリーザチルドレンの方々がお話してくださって、子どもの自由について考えさせられました。私達日本人にとって、子どもの自由、教育はあたりまえのことになっていますが、貧困国などでは、子どもを働かされているところが多く、「学校」という単語さえ知らない子どもがたくさんいることを知りました。また、ワークショップでの話し合いでは、私は「難民問題について」を選び

ました。そこで、もし自分が難民になってしまったら、日本は難民を多く迎えるべきか、とても考えさせられました。そして、子ども兵士になったミシェル話を聞きました。幼いながら兵士になり、親友を自分の手で殺してしまったという話は、私にとって、とても衝撃的でした。私達は、平和であることが当然でしたが、この話を通して、平和について、難民について、多くのことを考えてみようと思いました。

#### 愛国学園大学附属四街道高等学校

##### インターアクト年次大会で感じたこと 守谷奏穂さん

私は八月二十六日に開催されたインターアクト年次大会に参加しました。今年は「70億の幸せを求めて」というテーマのもと、市原中央高等学校のみなさんや市原ロータリークラブのみなさんが計画してくださり、講演やポスターセッション、ワークショップに参加させていただきました。

講演とワークショップでは「世界の貧困問題」と「教育」についてフリー・ザ・チルドレン・ジャパンの皆さんに教えていただきました。今世界では四、八秒に一人が貧しさのため亡くなっていることや教育を受けられない子供たちのうち半分以上が女の子だということを知り、とても残念な気持ちになりました。そして今私たちはとても恵まれた環境にいるということを改めて感じました。

ポスターセッションでは、他校のみなさんと意見交換をし合ったりすることができ、とても刺激を受けました。

私たちに今出来ることは少ないかもしれませんが、たくさんの人たちで協力すれば大きな力になると信じ、これからも頑張って活動していこうと思いました。

##### 年次大会を終えて 齋藤詩乃さん

最初に「国際社会で世界を変える」～自分たちにもできる国際協力～という公演を聞きました。この講演でまずフリー・ザ・チルドレン・ジャパンについて学びました。ある少年が奴隷として働かされていたところから逃げ出し世界には奴隷として働かされている人たちが大勢いるということを知っていました。ですが少年は殺されていました。その記事を読んだ一二歳の少年がその意思を多くの人に伝えたいと思い、クラスの数人を集めて作った団体が「Free The children」でした。私は一二歳という若さでそういう団体をつくったことに驚きました。それが日本でも団体できて私と同世代の子とかも活躍していると聞きすごく驚きました。同世代でそんなすごいことをしている子がいるなんて思いませんでした。その次にポスターセッションというものをしました。インターアクトの日頃の活動を紹介するというものです。いろんな学校の活動の話をお聞きいただき勉強になりました。次にワークショップというものがありませんでした。私は教育について学びました。世界では教育を受けたくても受けられない子供たちがいっぱいいることがわかりました。勉強ができず働かざるをえない子供もいて世界は残酷だなと思いました。子供

の本業は、学生なのに奴隷として働かされていたり、将来夢のある子供もいるかもしれないのに働かされてほんとに救ってあげたいと思いました。貧困脱出ゲームというものをしました。これはチームに分かれカードに書かれた問題を解いて自立するというものです。このゲームをやって感じたことは、クリアできても全員が自立できるわけではないということです。このゲームをやって教育について詳しく理解することができたとし、団結し協力しないとクリアはできないことがわかりました。この年次大会で世界で苦しんでいる子供たちがいっぱいいることがわかりました。その苦しんでいる子供たちのために私は何もできないんじゃないかと思っていただけ、わたしにもできることがいっぱいあることがわかりました。

#### 市原中央高等学校

##### 年次大会を終えての感想 関谷珠紀さん

『グレイグさんと自分たちとでは何が違うのか。』これが私たちの一番感じたことでした。今回の年次大会では、フリー・ザ・チルドレン・ジャパンの方々に出張授業をお願いしました。その中でも、45カ国以上で活躍するフリー・ザ・チルドレンの創業者であるグレイグさんについてのお話がとても衝撃を受けました。

私たちが衝撃を受けたことは、わずか12歳で行動に移した彼の行動力と覚悟です。彼について話を聞いたあと、私たちは彼と同じ思いを抱いているのにもかかわらず、まだ行動できていないことに関して中途半端な気持ちが残りました。そこで、これからはグレイグさんと今の私たちとでは何が違うのだろうか、ということを考えていきながら行動したいと思います。今回の年次大会で、私たちはインターアクターとして、またこの世界に生きる一人の人として、小さいことでも、今の自分には何ができるのだろうかと考え続けていくべきだと学びました。

##### 年次大会を終えての感想 宮原凜さん

今年度の年次大会は、ホスト校として準備しました。仲間と協力して活動する楽しさ、自分たちで準備をする大変さ、主催する側の責任を改めて実感しました。さらに自分たちで気づき、早め早めに行動することの大切さを学びました。準備が整い、迎えた当日は私にとってとても有意義な時間になりました。特に午後の分科会で、積極的にディスカッションをしているところを見ました。私はリーダーとして分科会に参加していたので直接ディスカッションに参加することはなかったのですが、各グループを周りながら話を聞いてみました。すると学校や団体によって意見の食い違いがあったり新しい意見が出たりして、それによって新しい考えが出るが多かったです。さらにフリー・ザ・チルドレン・ジャパンの方の説明のおかげで、国際問題に興味を持った方がたくさんいました。私自身も、改めて社会問題について深く調べてみたいと思い、そのためには世界のこともっと知る必要があると感じました。